〔馬立場の跡〕　放牧馬が群をなした所はシバ原となる。そのシバ原は現在も残っている。

なく、火入れや刈り取りで維持されるススキ草地であった。阿武隈山地でも、三春駒の名に残るように、馬産は盛んであった。特に、なだらかな準平原の地形は放牧に適しておりこれが盛んに行われた。放牧馬は、風通しのよい小高い所に好んで群をつくる。このような所は過放牧の状態になるから、ススキは、より再生産能力の高いシバとおきかわる。馬立場と呼ばれるこの特殊な立場には、山中にあってあたかも都市公園をおもわせるような緑の芝生が拡がっていたのである。

これら薪炭林と草地の経営は、おそらく千年ほどにもわたって営々として続けられて来たものであろう。　しかし、ここ20～30年の間に日本経済は、めまぐるしく変化し、それに伴ってこれらの仕事は急速に衰微し、今は

〔古い薪炭林〕　標高700～800m以上ではミズナラが多く、以下ではコナラが多い。